



第28回日本糖尿病教育・看護学会学術集会 ランチョンセミナー6

アドボカシー活動とステイグマの解消 ～岩田稔さんと共に考える

2023年9月24日(日) 12:20～13:20 第1会場 岡山コンベンションセンター 3F コンベンションホール

座長

社会医療法人 誠光会 淡海医療センター 看護局

統括看護部長
慢性疾患看護専門看護師

伊波 早苗 先生

講師

岡山済生会総合病院 内科・糖尿病センター

副センター長

利根 淳仁 先生

※ランチョンセミナーへの参加には、オンラインによる事前参加登録
もしくは現地での当日参加登録が必要となります。

詳しくは学術集会ホームページをご参照ください。

<https://site.convention.co.jp/28jaden/>



1型糖尿病と向き合いながら活躍した元プロ野球選手の岩田 稔さんも登壇し、
ご自身の経験をお話しいたします。

アドボカシー活動とスティグマの解消～岩田稔さんと共に考える

座長：社会医療法人 誠光会 淡海医療センター 看護局

統括看護部長

慢性疾患看護専門看護師

伊波 早苗 先生

講師：岡山済生会総合病院 内科・糖尿病センター

副センター長

利根 淳仁 先生

2023年7月現在、2019年から続くCOVID-19の流行はようやく落ち着く兆しを見せています。この数年の間も、新しい糖尿病治療薬や通信機能を備えた血糖管理デバイスが登場するなどの技術革新が進み、患者さんとのかわり方においても、オンライン診療が開始されたり、Webシステムを活用した患者会が実施されるなど、糖尿病医療を取り巻く環境は絶えず変化し続けています。

さて、糖尿病の治療目標は、合併症の発症・進展を阻止し、糖尿病のない人と変わらない寿命とQOLの実現を目指すことです。当院でも、この目標達成に向け、さまざまな職種の医療スタッフがチームを組んで治療を行っています。前述の通り、近年の医療技術の進歩により、既に糖尿病がある人も糖尿病がない人と変わらない平均寿命の達成が期待できるようになってきています。どのように患者QOLを向上させられるかについては、様々な視点があり、コメディカルの皆さんも含めた多くの医療従事者の間で議論が進められていることだと思えます。

このQOLの向上に向けた取り組みとして、近年、特に注目されているキーワードが「スティグマ」と「アドボカシー」です。日本糖尿病学会と日本糖尿病協会は、2019年11月に「アドボカシー委員会」を合同で設立しました。社会の意識や仕組みを変革する取り組みのなかで、昨年5月からは「糖尿病にまつわることばを見直すプロジェクト」も開始されています。皆さんもご存じの通り、アドボカシー活動によってスティグマを取り除いていくよう努力することが大切であると糖尿病治療ガイド（2020-2021版）で記載されています。スティグマとアドボカシーは、医療従事者一人一人に関わる事柄として、理解を深めていく必要があると感じています。

本セミナーでは、「アドボカシー」と「スティグマ」について、その現状や必要性を改めてお伝えするとともに、元プロ野球選手として国際大会でも活躍された岩田稔さんにもご登壇いただきます。「元プロ野球選手＋糖尿病のある方」の立場から、貴重な経験もお伺いし、皆さんと共に考える機会にしたいと思えます。

ご参加の皆さんには、本セミナーを通して、糖尿病診療におけるアドボカシー活動やスティグマの解消が身近な問題であることを実感いただき、明日からの糖尿病のある方に寄り添った、細やかな治療支援に繋がっていただければ幸いです。

— アークレイからのお知らせ —

LINE公式アカウント「検査のアークレイ（医療従事者用）」

セミナーのご案内や友だち限定のコンテンツなどを配信しています。
アークレイから発刊している情報誌などの情報も定期的にご案内しています。

友だち追加は
こちらから

